

## 平成 27 年度 第 3 回北九州市子ども読書活動推進会議 会議録（要旨）

1 日 時 平成 27 年 11 月 13 日（金） 10:00～12:00

2 場 所 北九州市立中央図書館 2 階 第 3 会議室

3 出席者 〔委員〕 山元悦子委員（会長） 他 11 名  
〔事務局〕 岩渕教育次長 他 18 名

### 4 議 題

（1）次期「北九州市子ども読書プラン」パブリックコメント素案（案）について

### 5 主な質議、意見

委員／ いろいろな意見が反映された新しいものになっていると感じた。

乳幼児関係の施策について、まずスタートのところでは、大人の手助けがないと子どもは読書に入っていけないので、乳幼児期からの読書の大切さというのを、もう少し入れてもらいたい。コンセプトとしてやはり最初に、乳幼児期からの読書の環境づくりとか、親子の「読書へ導く」というところが入ったほうが良いと思う。

ブックスタートの普及のため、母子健康手帳交付時に絵本を贈るということだが、そこから産むまでに随分時間があり、配られたものが活かされるのか。保育所でブックスタートの本を配布をするときには、保育士が、こうやって読むよということを伝えて渡すというふうにやっていた。その部分が消えてしまうことをどこで補うのかということが疑問である。

そこで、家庭教育学級で子どもの読書をテーマとする講座を増やすということは、親に読書の大切さを分かってもらおうということが、非常に難しいことなので、とても良いことだと思う。幼稚園や保育所で行っている家庭教育学級でも、読み聞かせの方に来てもらって、実際にやってもらおうと思う。

24 ページの 25 番の取組み内容に「幼児期は本の楽しさを知る大切な時期であることから」と書いてあるが、ここは「乳幼児期」にして欲しい。

逆に、26 ページの 30 番「図書館司書の学校への派遣」は、取組みの内容を見ると、乳児は対象年代に当たらないと思う。

それと 31 番も、主な取組みのところは、「関係施設・団体が行う各事業への相互協力」になっているが、取組み内容は、全部、乳児は当たらないものばかりだと思う。

委員／ 幼児期の施策について、やはり、ブックスタート事業について、母子健康手帳交付の際に本を配るのは、目標を達成することにはなるが、目標と成果が一致するかといったら、そこはまだ補足がいるのではと思う。

ブックスタートで、絵本をもらえることは、とても良いことであるが、その後、幼稚園に入るまでに、図書館では読み聞かせなどをやっているということや、どういった本を読んだらいいかということや、どういった図書館利用についての広報や啓発があるといいと思う。自分で調べて行ける親子は良いが、知らない方も多いと思う。そこで出会って友達になることもできる。

身のある読書好きな親子を育てていくということを考えたときには、もう少し細やかな導き方をすると基礎固めができていくのではないかなと思う。

22 ページの 24 番「市立図書館への来館きっかけづくり」が、そこにつながると思うのが、呼びかけ方法を具体的に、どのように親子にしていくか、例えば、幼稚園入園前の親子をどう取り込んでいくか、少し具体的に考えるともっと読書好きの家庭が生まれるのではないかなと思う。

委員／ 小倉南の親子ふれあいルームで、親子、保護者に対して、絵本講座などを2年続けているが、その講座に妊娠して、安定期のお母様も申し込みされている。既に胎児の時期に、プレママ・プレパパが興味を持っている。赤ちゃんが生まれてすぐに、親子ふれあいルームにはなかなか行けない、その時期に、家で絵本の読み聞かせを準備するため、親子ふれあいルームでの絵本の読み聞かせの楽しさ・重要性を啓発するという講座に、プレパパ・プレママも参加できるように、対象年代に「胎児」も入れてはどうか。

委員／ 市の施策やサービスを知らない方が多いという部分に関して、地域差等いろいろあるとは思いますが、自治会に入っていない方が増えたことにも要因があるのではないかな。小学校以上の子どもがいる家庭には、PTAからの配布物として行き届くものも、未就学児しかいない家庭には届いていないのではないかな。

委員／ 私も、絵本を母子健康手帳と合わせて贈るのはすごくいいことだと思う。ただ、生まれてくるまでの間をどうするかが課題である。妊婦健診の時の、長い待ち時間に、絵本の紹介なども含めて何かアプローチができないか、産婦人科と協力をするのはどうか。

委員／ 「はじめての絵本事業」に関して、母子健康手帳は、つわり期などにももらうため、説明を受けたりすることは、気持ち的には少し厳しいかなと思う。

また、配布率は上がるかもしれないが、その目的を外れてはいけないのではないかな。本当は、本を手渡すときに、子どもに絵本を読んでやったときの子どもの反応をお母さんに見てもらおうということがブックスタートの大きな意義としてあるので、その辺りをどういうふうにフォローできるのか気になった。

「はじめての絵本事業」をやった結果として、やって本当に成果が上がっているのかどうかを追跡調査して確認しないと、このままだと不安な気がする。

委員／ 「はじめての絵本事業」に関して、母子健康手帳をもらっても、100%無事に出産するとは限らないケースもあるので、その辺りのことも若干心配である。

まだ育児サークルほど普及していないが、「妊産婦サークル」という妊娠中と産後1年間のお母様方を対象に、まちづくり協議会などが協力し、市民センターで活動している。その辺りから、絵本を手渡すことを始めてみるのもいいのではないかな。各市民センターで取り組むことができればと思う。

会長／ 計画の基本目標「全ての子どもが楽しく自主的に読書に親しめる環境の充実と、子どもの成長に必要な豊かな心と生きる力をはぐくむ読書習慣の形成」について、少し長いようなので、何か代案はないだろうか。

委員／ 「環境の充実」と「読書習慣の形成」は必要だと思う。「環境の充実」とは、児童生徒、子どもたちのハード面の環境の整備、「読書習慣の形成」とは、本人自身のソフト面というふうに考えてみてはどうかと思う。そう考えたときに、「自主的に読書に親しむ」というのは、これはむしろソフトで、逆に、「豊かな心と生きる

力をはぐくむ」というのは、回りからその子たちを育てていこうという、環境面、ハードではないかと思った。

それで、「豊かな心と生きる力をはぐくむ読書環境の充実」と、「自主的に進んで読書に親しむ読書習慣の形成」というふうにすると、ハードの部分とソフトの部分で思いが伝わるかなと思う。

委員／ 「なぜ読書をするのか」という4つの視点から考えてみるのもいいのではないか。4つの視点とは、「インフォメーションの読書」、「インスピレーションの読書」、「コミュニケーションの読書」、「レクリエーションの読書」という、読書するとこんないいことがあるのだという4つの視点である。

なぜ読書をするのか。読書の意義を、ぱん、ぱん、ぱんと表してもいいのではないだろうか。

委員／ 子どもの成長に必要な豊かな心と生きる力をはぐくむには、周りの大人たちが、働きかけ、環境を作ってあげなければいけないと思う。「ほとんどの保護者が、子どもが読書好きになってほしいと思っている」とアンケート結果にもあるし、読み聞かせが大事だとも皆さん思っている。読み聞かせについてわからないこともあって、お母さん達は試行錯誤しているが、読書の大切さを保護者に働きかけ、大人の役割を、もう少し伝わるようにできないかと思う。

委員／ 第2章の5ページから、評価のところに「改善」、「目標達成」とか、「後退」とか、いろいろ言葉が使っている。それと、その前の3ページの評価基準のところに「目標達成」とか「順調に推移」という評価基準の用語が違うので、この第2章で使っている用語の意味をどこかに少し注記のように書いて、「改善」という状況であるなどを書くとも読みやすい。

それから、地域に案内をする仕組みについては、子ども図書館が出来たら、独自のホームページを作って、そこから情報発信をすると良いと思う。お母さん方も忙しい中でもネットは見ていると思う。29ページの子ども図書館の担う機能の1に「情報発信」などの項目を一つ設け、ホームページ等をきちんと作り上げていくと情報が提供できていいかと思う。今は、図書館でもSNSを使って情報発信する時代になっているので、そういう手法はやはり使うべきかと思う。

委員／ 「地域・郷土コーナーの設置」の中の説明には、郷土出身の偉人とか産業などがあるが、「民話」を付け加えて欲しい。民話というジャンルの中には昔話、寓話、伝説、神話、笑い話、お化け話、そういうものが入るが、時代も地域も人も限定できる、自分たちの住んでいる地域で古くからずっと語り継がれている郷土の伝説は、子どもに伝えていかなくてはならない。

読み聞かせボランティアバンクについて、読み聞かせボランティアと専門家の中間にいる人達、若干専門性のあるブックトーク、ビブリオバトル、アニメーションなどができる人達のバンクも別個に設けてもらいたい。

委員／ 基本方針の2番「読書の量に加え質の向上を目指す」ということについて、読書ボランティアグループは北九州市には多いが、読書ボランティアを増やしなから、質の向上のための取組みも必要だと思っている。

委員／ 「地域・郷土コーナーの設置」ということで、19ページの12番に「学校図書館の充実を図るため、文部科学省の「学校図書館図書標準」に従い、良質の図書や図書館資料の収集・整備を進めるほか、郷土愛の醸成につながる郷土資料の充実を図ります」とある。実際に、歴史資料の収集、保存等を行って、記念誌を作

ったことがある。いろいろと貴重な資料があったが、十分に活かされることが大切である。そのためには、学校もボランティアもともにスキルを身に付ける必要があるのではないかと。

委員／ 資料の28ページの、施策7「主体的に読書に関わる子どもの育成、支援」の取り組み、「(仮称)子ども読書会議の開催」は、小学生、中学生までだが、ビブリオバトルは、小学生が大学生と一緒にやることもあるので、高校生なども入れているのではないかと。

会長／ 対象を「主に小学生、中学生」と書いている。

事務局／ 高校生も対象にしたい。しかし、計画に掲載すれば、必ず結果報告が求められるため、最低限やることを載せている。北九州市立の高校は北九州市立高校1つしかないため、高校生を対象に何かやるというのは難しい面がある。現実にはそれは対象に考えていくが、それをはっきりこの計画の中で書けるかということ、書けないかなという判断で、「主に」という表現にしている。

会長／ 大きな課題として、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」を今後どう進めていくかということがあるが、その点について意見はないかと。

委員／ 前回の会議で、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の話があったので、北九州市PTA協議会の教育環境委員会で協議した。その中で実際に知られていないことが多いという意見があり、実際、どのくらい周知されているのか、どういうことが行われているのか、調査しようということになった。全部の学校で協力してもらえるのか分からないが、PTA協議会として、何か打開策を考えて行動に移していきたい。

会長／ 「ノーテレビ・ノーゲーム」というのは、否定の「テレビを見ない」というマイナスの言葉である。学校教育でいうと、例えば廊下を走っている子どもに「廊下を走らない」と言うのではなくて、「廊下は歩きます」というように具体的なやり方を示すほうが良いと言われている。「ノーテレビ・ノーゲームの日」のチラシの中に、「こんな本読まない？」や、「図書館に行こう」など、前向きな働きかけの記事などがあればと思う。

委員／ 以前お世話になった素晴らしい先生が、10分間読書はもちろん、「すきま読書」というのをしていた。いつも読みかけの本を机の中に置いておいて、例えば、テストの見返しもきちんと終わって、することがなくなったときに、それを読むなど、ただし、そのときは、漫画は駄目だった。それをするによって、そのクラス全体が、いつも本を持っていて、「図書館に行こうよ」、「本を買ってよ」という子どもたちがすごく増えていった。

委員／ この基本目標に関して、「全ての子どもが楽しく」とか、「子どもの成長に」とあるが、やはり、大人が本を好きだったら子どもも好きになるということがあるので、この中に「家族の中で」とか、「大人とともに」とか、そういう言葉も入れたら良いと思う。

委員／ 読書の達人、読み聞かせボランティア、読書クラブとか、本を読むことが好きな人に子ども達と触れ合ってもらえば、子どもたちに対するいいメンターになるのではないかと。少し読み聞かせボランティアに特化しすぎている気がする。読書の達人クラブとか、読書が好きの方のバンク、その人たちで読書クラブや、読書会議リーダーみたいなものを養成する。読書の達人に触れ合うということも大事かと思う。

事務局／ 計画に書いている以上に、いろいろなことをやるつもりはある。しかし、様々

な事情により、全てを計画には書けない。その中で、確実に修正して記載できるというものもある。例えば、「子ども図書館に情報発信機能を持たせる」とか、対象年代のところの「乳児・幼児」の部分を、もう少ししっかり書き込むというところは修正していく。

また、ブックスタートについても、配布率を上げるために、母子健康手帳と一緒に配布することによって、本来の読書の大切さなどを伝えることが十分にはできなくなる可能性がある中で、そこをどう補うかが大切である。保健師は子育てに関して、医学的なことや生活上のことなど、たくさん話さないといけないため、今までは読書についてゆっくり話すことはなかなかできなかったが、保健師も読書の重要性というのは理解しているので、ある程度は話せると思う。

生まれた段階や、プレパパ・プレママの段階からの学ぶ機会、本を渡して生まれるまでの間をどうフォローしていくか、生まれてからの読み聞かせに来てもらえるアプローチ、広報など、今の書きぶりで欠けているところを少し補うつもりであるが、長期的に関係部局と話をしながらやっていかないといけないものもたくさんある。

今後、今日のご意見を受け修正するが、修正されなかったからといって、ご意見を反故にしたわけではなくて、それは計画には書かないけれども、今後予算要求していったら、事業としてはやっていくつもりだとか、運用で活かしていくと、そのようにご理解をいただきたい。